

# 第17回「あび北フォーラム」議事録

## ～テーマ『高齢者なんでも相談室』って何?～

**開催日：** 2024（令和6）年2月18日（日） 13時30分～16時30分  
**開催場所：** 我孫子市北近隣センター（ホール、会議室1-調理室、会議室2-3）  
**参加者：** 我孫子北地区高齢者なんでも相談室：室長他2人（計3人）  
自治会等： 14自治会等 16人  
我孫子市役所：市民協働推進課2人（係長、主任）、高齢者支援課1人（係長）  
地域会議事務局等：13人（合計35人）

### 配布資料：

- ①フォーラム開催要領
- ②我孫子北地区高齢者なんでも相談室の紹介資料  
「高齢者なんでも相談室って何」（～自治会との連携を深めるために！～）
- ③参考\_これまでのフォーラム内容（実施概要一覧）

## 1. 開会挨拶（要旨）

### ○事務局長

・今回のテーマ設定理由と今後の自治会活動で必要時には気軽に相談・連携できる関係に繋がって欲しいとの挨拶があった。

＜テーマ設定理由＞

第12回、13回と16回では、自治会で高齢者支援を行う上で不可欠な社協、民生委員との連携について勉強会を行った。今回は社協、民生委員と同様に深い関係にある「高齢者なんでも相談室」との連携を深めるために勉強会を開催する。

### ○市民協働推進課係長

・自治会での高齢者支援では、「高齢者なんでも相談室」は頼りになる存在であり、本日は皆さんと一緒に勉強させていただきます。

本日のフォーラムにより、「高齢者なんでも相談室」との連携が深まることを期待する。

## 2. 自治会への事前アンケート結果報告

「高齢者なんでも相談室」の認知度の事前アンケートの結果報告があった。

＜結果＞ 相談室の存在を知っているのは4割で、6割は知らなかった。

存在を知っている4割の中で、活動内容まで知っているのは2割と少なかった。

（存在を知らなかったを含めると、活動内容を知らないは9割を超えている）

## 3. 「高齢者なんでも相談室」の機能・役割と活動内容の紹介

我孫子北地区高齢者なんでも相談室の室長他2人から、配布資料②（※）により、順を追って、相談室の機能・役割と活動内容が紹介された。

最後に、自治会となんでも相談室との連携・協働として、次の3つの呼び掛けがあった。

- ①気になる高齢者がいたら連絡がほしい
- ②地域の「困った」を見つけたら共有したい
- ③支援のアイデアを一緒に考えたい

(※) 配布資料②で紹介された項目は以下。

- 高齢者なんでも相談室とは
- 地域包括支援センターができるまで
- 地域包括ケアシステムとは
- 我孫子市内のなんでも相談室の拠点
- 専門職と業務
- 各業務と事業の関係性
- 三職種（主任ケアマネジャー・保健師・社会福祉士）のチームアプローチ
- 各業務の詳細（①総合相談支援業務 ②権利擁護業務 ③介護予防ケアマネジメント  
④包括的・継続的ケアマネジメント支援業務）
- その他の事業（家族介護者教室、認知度支援）
- なんでも相談室が目指すこと

#### 4. グループ討議概要

3グループにわかれ、グループ討議を行った。

各グループの討議概要は、【別紙】グループ討論概要を参照。

#### 5. まとめ

各グループからの討論概要の報告後、市役所高齢者支援課より本日のフォーラムを通しての感想を頂いた。

<頂いた感想>

「高齢者なんでも相談室」の認知度は高いと思っていたが、今回のフォーラムでのアンケート結果から、とても低い状況であることを知った。

「高齢者なんでも相談室」への相談件数が月600件ほどあるが、認知度からすると、それは一部に過ぎないと推察される。

高齢者やその周りの方々がもっと気軽に相談できる、そんな暖かい地域であって欲しい。行政、社協、民生委員、高齢者なんでも相談室、自治会の全ての方が協力し合って、そんな地域にしていければと思います。

#### 6. 連絡事項

事務局より、令和6年度の開催予定日についてアナウンスがあった。

- 予定日：第18回 令和6年 6月16日
- 第19回 令和6年10月20日
- 第20回 令和7年 2月16日

#### 7. 閉会宣言

事務局より閉会宣言が行われ、閉会した、

以上

## 【別紙】 グループ討論概要（敬称略）

3グループに分かれ、自己紹介のあと意見交換が行われた。  
その概要を記載する。

### 【Aグループ】

高齢者に関することとして、

- ・電話相談ではお互い十分に意思が通じないケースがある。
- ・認知症関連の相談も多くなってきており、各地区の民生委員との連携は重要である。
- ・困ったときには最初に相談室に相談してほしいが、警察や消防を頼るケースが多い。
- ・高齢者だけではなく、家族も含め、なんでも相談室を知らない人が多い。

などの話があった。

これらに対して、

- ・SNSなどの活用、自治会の回覧板等を活用したPRなどで、多くの人に相談室を認知してもらう必要がある
- ・自治会の回覧板等にラインを活用している自治会もある
- ・我孫子市北部地域に住み続けたいと考える高齢者の権利とプライバシー保護を考えながら、高齢者保護を第一に進めるためには、なんでも相談室を中心に地域で対応したい

などの意見交換が行われた。

### 【Bグループ】

高齢者のコミュニティの場の一つであるシニアクラブのあるなしを確認したところ、

- ①一つのシニアクラブを3つの自治会で助成している
- ②市への活動報告書作成を継承する人がいなくなったので、解散して今はない
- ③自治会が助成するシニアクラブの設置準備中
- ④自治会にシニアクラブはなく、作る予定もない

という4つにわかれてきました。

その中で、シニアクラブのある自治会と設置予定の自治会では、自治会から助成金を出すこと以外の連携はないとのことでした。

本日のフォーラムで、シニアクラブのあるなしに関わらず、高齢者に関わる相談は、なんでも相談室にということを理解できたことは良かったとの感想があった。

最後に、なんでも相談室の方から、グループ討論に参加して、これまで知らなかった自治会等の活動を知ることができたことは収穫だったとのことと、これからはより一層、相談室から自治会に出向くなどを増やして、皆さんが気軽に相談できる環境を作っていきたいので、声をかけて頂けると有難いとの話があった。

### 【Cグループ】

今回のCグループの参加者はマンションだけとなり、そこでの高齢者に関わることについての情報交換が行われた。

参加された方々は、他の自治会や高齢者なんでも相談室、高齢者支援課、北地区社協の取組みなど今後の活動に参考になる情報交換になったようでした。

主な発言を列記する。

- ・高齢者が増えており見守りをしたいと思うが方法がわからない。
- ・民生委員には個人的なことは聞けないので本人の状況はわからない。

- ・高齢でゴミ捨てが出来ない人を近所の人が助け合うことで解決したところがある。
- ・見守りの方法ではLINEなどのSNSの活用もある。
- ・LINEなどのSNSを防災会など組織で導入するのは難しい。
- ・防災会など組織で導入が難しければ、10人とか20人とかの範囲でやってみるのもいい。
- ・80歳以上の人を毎年訪問するが毎年増えてきており、その中で単身者が増えており心配なので、見守り・お助け隊を始めた。単身で認知症の方についてなんでも相談室に相談したところ、家族が来るようになった。
- ・新聞でみたが、電気ガスの利用状況を見ている自治会があるとのこと、参考になるのは。
- ・安否確認のためインターホンで呼んでも出ない方もいるので、迷惑がらずインターホンだけは出るように自治会で話し合った。
- ・自治会活動をしてこなかったが今年からお助け隊を始めた。
- ・役員が1年交代で継続活動が難しかったが、役員交代後に旧役員に残ってもらい新役員をサポートしてもらうようにした。
- ・高齢者も社会参加でネットワークが出来るので、シニアクラブや同好会、サロンなどを紹介することも良い。それらの場合は普段の安否確認にも繋がる。

以上